



# 龍房の四季

第三中学校  
令和3年  
9月号

## 「支える側と支えられる側」

校長 小澤 英明

今年の夏休みは、史上最高のメダルを獲得できたオリンピック、そして現在行われているパラリンピックを見て、多くのアスリートの活躍に勇気と感動をもらったことだと思います。私は特に水泳の池江選手や柔道の阿部兄妹のオリンピックにかける強い思いや重圧に負けない心に感動しました。生徒たちもアスリートを「生きる教科書」として多くのことを感じ、学んだことだと思います。

また、オリンピックの報道で目に留まったのは様々な場面や場所でオリンピックを下支えしたボランティアの方々のことです。残念ながらごく一部分しか報道されていませんが、競技運営を支える役割から始まり、選手村で案内や世話をする役割、地方で合宿する各国チームの練習や移動を助ける役割など知られていない多種多様な活動があることを知りました。誰もがやりがいをもって行っている姿が映し出されていました。ボランティアの方々はインタビューで「支える」ことができた充実感や満足感、選手に対しての感謝を口にしていました。「支えられた」帰国する外国人選手がボランティアとの別れに涙を流して惜しむ場面にも感動しました。

夏休み中に多くの部活動の大会やコンクールで生徒たちが「支える」姿をたくさん見ることができました。試合中のインターバルに選手に水筒やタオルを手渡す姿、タオルやうちわで風を送る姿、選手の道具を両腕にたくさん抱えて汗だくになりながら走る姿、自分は負けてしまっても勝ち残っている選手を懸命に応援する姿など、数えればきりがありません。また、吹奏楽部のコンクールでは、演奏メンバーではない生徒たちが裏方として楽器の運搬や設置に緊張感をもって必死に行っている姿も見ました。

考えてみると部活動だけでなく学校生活も、選手とボランティアのように「支えられる側」と「支える側」が様々な場面で立場を入れ替えながら行われています。代表委員とそれ以外の生徒、班長とそれ以外の生徒のように。大切なのはこのことに気づけるかということです。それぞれに場面で「支えている」「支えられている」と感じられるかどうかです。場面によって立場が入れ替わる体験をとおして感謝や協力の気持ちを持つようになり、部活動であればチームワークが、学級や学年であれば集団としての力が育まれます。場面が変われば立場も変わります。「支えられる側」と「支える側」の立場を意識して行動できる集団づくりを目指したいと思います。

さて、2学期もコロナ禍での学校生活が始まります。これまでと違うのは児童生徒も感染する可能性が高いということです。引き続き感染防止対策をとりながら、学びを止めないように工夫をして取り組んでまいりたいと思います。ご家庭でも配付した資料にあるとおり、引き続き感染予防対策と学校への速やかな連絡をお願いいたします。

2学期も本校教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

# 栄光の軌跡

～総体予選パート2～



詳細はホームページをご覧ください。

## 9月の予定(変更版)

2日(木) 午前授業(～10日)

3日(金) タブレット確認

※今後予定が変更になることがあります。